

企業レポート・トップに聞く（第55回）：(株)東海メディカルプロダクツ 筒井宣政氏—— 人でも多くの生命を救いたい——

地域： | 業種：医療・福祉

長引く構造不況の中、発想の転換、ものづくりの優位、リーダーシップの発揮など、さまざまな要因で活躍している企業のトップにインタビューを行い、その成功のキーファクターを見つけ出すコーナーです。

筒井流 成功するための三カ条

1. やってやれないことはない
人間は自分が思っている10倍は能力を持っているもの。「やれませんか」の言葉の裏には「やりたくない」という気持ちが隠れている。やろうと思えばできないことはない。
2. JUST DO IT
今の自分を基準として、その10倍の目標を立てるべき。そうすれば、その目標達成のために思考が変わる。そして行動が変わり、結果がついてくる。
3. ピンチはチャンス、絶対負けない
「これをやろう」「これをやらないといけな」と思ったとき、すごく良いアルファ波が出ている。すぐにメモを取り、目標とする。それをやりきり、消し込んでいく。やり遂げた人間こそが「成功した人間」なのだから。

出発点

●やってやれないことはない

医療用機器の開発から販売までを手がける株式会社東海メディカルプロダクツの代表取締役 筒井宣政氏の実家は、独自のビニール加工技術を誇る東海高分子化学株式会社。大学を卒業した1964年、筒井氏はこの家業を継ぐことを前提に同社に入社した。ところが、入社2年目にして当時の不況が筒井氏を苦境に立たせる。筒井氏の父が保証するいくつかの借金が焦げ付いていることが発覚、一年後に負債を算出すると、年商の2倍にもおよぶことがわかった。当時の利益から計算すると、返済には70年かかる額だ。しかし、筒井氏は“やってやれないことはない”と自らを奮い立たせ、父に代わって会社を切り盛りし始める。講道館で鍛えられた柔道の精神が、苦境に立ち向かわせたのである。資金繰りや営業に奔走する中で、筒井氏はアフリカで新しい髪留めが求められているという情報を得る。



株式会社東海メディカルプロダクツ
代表取締役 筒井宣政氏

「それまでの髪留めは木綿糸を使っているためすべりやすく、困っているというのです。だったら、ビニール紐の髪留めを持ち込めば大きなビジネスになるに違いないと読み、単身アフリカへ飛んで商談先を探しました」と筒井氏は語る。

しかし、コネはもちろん、知識もない遠いアフリカの地で、商談先はすぐには見つからない。できることはすべてやったという筒井氏は、ある貿易商の祖母の7日に及ぶ葬儀に日参した。文化も習慣も違う日本人が、共に哀悼の意を分かち合う。そんな姿が貿易商の心をつかみ、筒井氏はついに契約締結に至った。こうして西アフリカ各国でビニール紐の髪留めは大流行し、70年かかると言われた借金をわずか7年で完済、会社は無借金経営の状態になった。

ターニングポイント

●次女の命を救いたい

一方で、筒井氏の私生活ではつらい日々が続いていた。1968年に生まれた筒井氏の次女が、心臓に先天性の特異な疾患を持っており、医師から“あと2~3日の命”との宣告を受けてしまったのだ。治療を懇願する筒井夫妻だったが、ミルクを飲ませることさえ危険だという。そんな医師を振り切って、筒井夫人が“せめてミルクだけでも”と15ccのミルクを与えると、次女はそれを飲み干してすやすやと眠った。これを見た筒井夫妻は、自分たちが何とかして救うしかないと思ったという。



「その後も病状は悪化することなく、次女はしっかりと育っていきましたが、どの病院からも手術は不可能と告げられるばかりでした。1977年に当時最先端の設備とスタッフで発足した国立循環器病センターからも、現代の医療で救うことはできないと言われてしまいました。」

いつかできると信じて貯めた手術費用は2,000万円を超えていたが、その行き場がなくなってしまった。筒井夫人は“では、せめてこのお金を同じように病気に苦しむ子どもたちのために寄付しましょう”と筒井氏に提案する。確かにその気持ちはわかるが、一方で自らが汗水を流して次女のために貯めたお金を全額他人へ寄付することについて、藁一本紙一枚惜しんで借金を返済してきた筒井氏は、なかなか踏ん切りがつかなかった。それでも妻の気持ちと話を聞くうちに、筒井氏は“それで誰かの命が助かるなら”とついに気持ちを決めた。ところが、この話を主治医に相談すると、返ってきたのは驚くべき提案だった。

「『そのお金を元手に、人工心臓の研究に取り組んでみてはいかがでしょうか?』って言うんです。最初は耳を疑いました。医療に関して全くの素人の私たちには、あまりに無謀な提案です。」

さらに主治医は、“二千数百万円あれば年間数百万円使ったとして、この先10年間研究を続けられ、もしかすると理想的な人工心臓が作れるかもしれない。たとえできなくても、医療業界の発展には寄与できるかもしれない。何より娘さんのために資金を使ったということならば、お二人も満足できるのでは?”と、続けた。筒井氏は、次女が助かる可能性があるならば、それにかけてみたいと思った。それに、会社の事業としても何か大きな転換を図る良いきっかけになる。筒井氏は、医療の世界に飛び込むことを決断した。

●人工心臓は断念

いったん決めると、筒井夫妻は医師の元へ通い、意見や知識を求めた。研究誌も読みあさり、学会発表会にも出席した。症例も、つぶさに調べた。こうした努力が、少しずつではあるが確実に試作品として形になっていった。1981年、研究資金を集めるために東海メディカルプロダクツを発足。そして1986年、ついに‘絞り込み型人工心臓’の開発に成功する。すでに2,000万円は消え、それどころか8億円もの資金を投じていた。しかし、完成の喜びに沸く間もなく、現実が立ちふさがる。実用までには動物実験に約100億円、治験臨床に約1,000億円かかるというのだ。

「これから先、時間がどれだけかかるかは全く未知数。諦めざるを得ませんでした。ならば、蓄積した技術を応用して医療事故が多発していたIABP (Intra Aortic Balloon Pump : 大動脈内バルーンポンピング) バルーンカテーテルを作ろうと思ったんです。」

ユニークポイント

●日本人のために作られた世界初の医療機器

IABP バルーンカテーテルとは、心臓の動きが悪くなった患者の心臓付近の大動脈内に設置し、拡張・収縮させることで心臓の動きをサポートするカテーテルのこと。それまで、日本には製造技術がなく、海外から輸入した欧米人向けの製品に頼らざるを得なかった。そのため、日本人と欧米人との体型（サイズ）の違いによる医療事故が少なくなかった。

「IABP バルーンカテーテルで、次女の重い心臓病を救うことができないことはわかっていました。でも“欧米人向けしかないならば、日本人向けを作らねばならない”とは誰もが思うこと。それでチャレンジを始めたのですが、人工心臓の開発に多くに時間と資金を費やしていたことから、開発には反対の嵐が吹き荒れました」と筒井氏は語る。

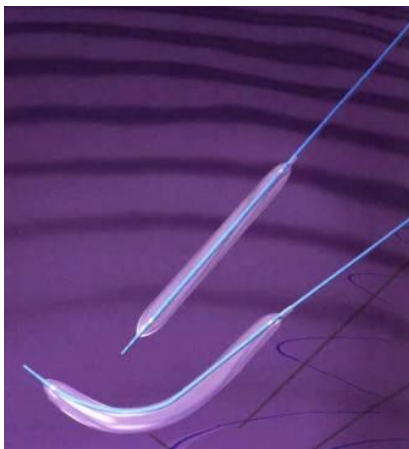
しかし、それでやめる筒井夫妻ではない。リスク管理上、医師や役所は不可能だと言うが、筒井夫妻は“やってやれないことはない”の精神のもと、限界を超えてやり続けた。こうして 1989 年、ついに日本初の日本人の体型に合わせて開発された IABP バルーンカテーテルが完成する。そして、実績を作るために医師たちも協力し、製品として実用の許可が下りたのである。



IABP バルーンカテーテル

今後の展開

●次女の思いを受け継いで



幅広い用途のPTA バルーンカテーテル

「IABP バルーンカテーテルが売れるたびに病室へ報告に行く私に、次女は『また一人の命を救えたんだね。よかった。』と笑ってくれました。IABP バルーンカテーテルで自分は助からないとわかっていた次女の、この無私な心が、私に“一人でも多くの生命を救いたい”という使命を思い起こさせました」と筒井氏は語る。

この使命はそのまま、東海メディカルプロダクツの創業精神となった。そして筒井夫妻が研究と試行を繰り返して完成させた IABP バルーンカテーテルは、年齢や体型に合わせた製品、医師の負担を軽減する製品など幅広く展開され、今では何万人もの命を救っている。

「今は、多くの患者さんが苦しんでいる病気に使える製品を最優先に作っています。無借金経営を続け、かつ社員が健康で幸せでいられるためには、マーケティングをして必要性の高いものから開発と実用化を進める必要があります。そこで生まれた利益を、患者さんの少ない病気向けの製品開発に充て、より効率的で着実に多くの生命を救うようにしています。」

●家族のために

筒井氏は、全国に販売網を拡げるための新しい事業戦略を考えている。地域ごとに社員を置き、個人事業主のように技術営業を行っていく形態だ。

「何より自己裁量で働けるので、家族と過ごせる時間が長く取れる。それが正しい労働の形だと思うのです。また、拠点を分散させれば、車を使わずに通勤できて、環境にも優しい企業経営が可能です。」

筒井氏の次女を救いたいという気持ちは、今では家族や家族のように感じている社員達をいたわる気持ちへと繋がっている。この事業戦略が自身の代で実現可能だとは考えていない筒井氏。生命を尊び、それに尽くす情熱は、引き継いでゆかれるべきものなのだ。

社長プロフィール



筒井宣政（つつい・のぶまさ）

1941年8月 愛知県名古屋市生まれ。1964年 関西学院大学経済学部卒業、同年4月に東海高分子化学株式会社に入社。1972年6月 同社専務取締役、1982年 同社代表取締役に就任。1981年に株式会社東海メディカルプロダクツを設立し、代表取締役に就任。自身の人生観にも多大な影響を与えた柔道は、講道館にて修練して4段の腕前。

会社プロフィール

- 創業 1981年10月
- 資本金 84,750千円
- 所在地 愛知県春日井市田楽町字更屋敷 1485番地
- 事業内容 医療機器の開発、製造および販売

このレポートは、株式会社三菱総合研究所が信頼できると思われる情報ソースから入手した情報、データを基に作成したものです。株式会社三菱総合研究所は、本レポートに記載された情報の正確性、安全性を保証するものではなく、万一、本レポートに記載された情報に基づいてお客様に何らかの不利益をもたらすようなことがあっても一切の責任を負いません。また、最終的な、投資やその他経営上の決定に関しては、お客様ご自身のご判断によって行われますようお願い申し上げます。